

令和4年度  
(2022年度)

## 自己点検・評価報告書

令和4年(2022年) 4月1日から  
令和5年(2023年) 3月31日まで

令和5年(2023年) 4月20日

学校法人吉田学園  
吉田学園情報ビジネス専門学校

## ■令和4年度 自己点検・評価について

〈説明〉

本校が、教育研究水準の向上や活性化に努めるとともに、その社会的責任を果たしていくため、校訓や学校の目標と教育の実態とを照らし合わせ、自らの教育研究活動等の状況について自己点検し、現状を正確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点など自己評価を行いました。

### 1. 対象期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

### 2. 委員会開催

第1回 令和5年4月10日（月）

第2回 令和5年4月20日（木）

### 3. 実施方法

(1) 実施組織： 自己点検・評価委員会

委員長：橋本 直樹 吉田学園情報ビジネス専門学校 校長

委員：川東 博之 吉田学園情報ビジネス専門学校 クリエイター系学科学科長

柏木 典大 吉田学園情報ビジネス専門学校 エンジニア系学科学科長

千葉 昌弘 吉田学園情報ビジネス専門学校 ビジネスキャリア学科学科長

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠しています。

(3) 評価方法：学則、教務内規、学生便覧やシラバスに記載されている教育目標や指導規定、中期学科計画などと照らし各種評価を行い、自己点検・評価委員会を開催し、学校として自己点検・評価を取り纏めています。

### 4. 評価項目

(1) 教育理念・目標

(2) 学校運営

(3) 教育活動

(4) 学修成果

(5) 学生支援

(6) 教育環境

(7) 学生の受け入れ募集

(8) 財務

(9) 法令等の遵守

(10) 社会貢献・地域貢献

(11) 国際交流

## 5. 評価項目に対する評価

(1) 4段階で点数評価しました。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

(2) それぞれの評価項目のうち評価3以下のものについての状況と課題、対策について報告いたします。

### 1 学校の教育目標

教育理念にある「実践型で人間性豊かな人財の育成」を根幹に、次の能力を総合的に備えた人財を育成します。

[知的・能力的要素]

「基礎学力」、「専門的な知識・ノウハウ」を持ち、自らそれを継続的に高めていく力。また、それらの上に応用力として構築される「論理的思考力」や「創造力」

[社会・対人関係力的要素]

「コミュニケーションスキル」、「リーダーシップ」、「公共心」、「規範意識」や「他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力」

[自己制御的要素]

上記の要素を十分に発揮するための「意欲」、「忍耐力」や「自分らしい生き方や成功を追求する力」

### 2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

入学者目標：

#### ① 情報系学科

- 学校の様子などを外部にアピールするため、YouTube 動画の公開により、オープンキャンパス参加への誘導を図る
- 産学連携により教育基盤を形成し、広報成果に繋げる
- 新学科の魅力を発信するための方策を基に学科の魅力を PR する

#### ② ビジネスキャリア学科

- 次年度の学科開始に向けた対策の精査と日本語能力試験（JLPT）対策活用法を模索

離脱者減少目標：

#### ① 情報系学科

- 早期個人面談の実施
- 出席不良者に対して、主任以上による段階的指導の継続実施
- 学生カルテを作成し情報をグループウェアでリアルタイムに共有する（情報共有）
- 学内イベントの充実
- 教育力低下の防止のための対面授業や ICT 授業等の適切な運営

#### ② ビジネスキャリア学科

- 当該年度は開講なし

就職率目標：

- ① 就職希望者 95%以上、卒業生者 90%以上
- ② ゲーム、CG 系の専門就職率 80%以上
  - コロナ禍でも技術向上に影響しない教育体制の見直し
  - クラス担任依存の就職サポートから、学校サポートへの移行と確立（会議の取り組み）
  - エンタテインメント系企業との関係性強化
  - 学生状況を共有、適切な会議の実施及び運営

資格取得率目標：

- ① 情報処理技術者試験合格率 30%以上
  - 修了試験対策としての ICT 技術を活用した演習対策を早期に実施
  - 過去問題の傾向を分析し、対策を実施
  - 過去の傾向により本試験合格率が最も高い選択問題を受験者全員に選択させる
  - 試験合格に向けた雰囲気作りにより、学生モチベーションを継続
- ② その他の資格は全国平均合格率以上

活動目標：

- ① 教育基軸手法を用いた、各校における中心的な教育課題の検証と改善、ICT 教育に係る能力の向上
  - 前年度の取り組みから、各学科の教育課題について、推進テーマを基に実施・検証を行う（特に自己効力感を高める取り組み）
- ② ICT 教育と学習管理システム（LMS）を用い、より高い学習効果を実現
  - LMS 導入による学習効果が期待できる科目の選定・検証
  - LMS 導入に向けた、学修管理体制の見直し

### 3 評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(1)-1 学校の理念・目的・育成する人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
(1)-2 学校における職業教育の特色は何か	4
(1)-3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
(1)-4 学校の理念・目的・育成する人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
(1)-5 学校の教育目標、育成する人材像は、学校に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

## (2) 学校運営

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(2)-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
(2)-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
(2)-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
(2)-4 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
(2)-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
(2)-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
(2)-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
(2)-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

(2)-8 コロナ禍により ICT 技術を活用した、教学・教務・校務システムの導入を図ったが、準備に至らない点があった。

### ② 今後の改善方策

(2)-8 2023 年度より教学・教務・校務システムが本格的に導入され、業務効率化が図られる。

### ③ 特記事項

特になし

### (3) 教育活動

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(3)-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
(3)-2 教育理念、育成する人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
(3)-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
(3)-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
(3)-5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
(3)-6 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
(3)-7 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
(3)-8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
(3)-9 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
(3)-10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
(3)-11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2
(3)-12 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
(3)-13 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
(3)-14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

#### ① 課題

(3)-10 (3)-11 人員不足の中で資格取得に関するカリキュラムは改善できたが、合格率は目標達成に課題が残った。

#### ② 今後の改善方策

(3)-10 (3)-11 教育内容の充実に向け、さらなる教員確保に努める。

#### ③ 特記事項

特になし

#### (4) 学修成果

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(4)-1 就職率の向上が図られているか	2
(4)-2 資格取得率の向上が図られているか	3
(4)-3 退学率の低減が図られているか	2
(4)-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
(4)-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

##### ① 課題

(4)-1 前年度の反省を踏まえ、サポート体制を改善し取り組んだ成果が得られた。クリエイター系学科の専門就職率向上に努める。

(4)-2 資格取得率は向上したが、更なる成果を目指す。

(4)-3 留学生については、2022年度はコロナ禍の影響が尾を引き、満足な学生生活が出来ず、学業にも影響した。他学生にも同様の影響があり、学校全体として退学者減を課題とする。

##### ② 今後の改善方策

(4)-1 専門就職率低下要因として、コロナ禍により就職学年前年度におけるモチベーション低下が原因の技術スキル低下が考えられる。現在就職活動関連行事の見直し、及びカリキュラム見直しを行い、改善に努めている。

(4)-2 受験資格の中でも特に難関となる国家資格取得率向上に向け、受験スケジュールの見直しを図り、改善に努める。

(4)-3 外部カウンセラーの利用を促進するとともに、学校全体として学生の自己効力感・自己肯定感を醸成する取り組みを、現在実施している。

##### ③ 特記事項

特になし

## (5) 学生支援

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(5)-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
(5)-2 学生相談に関する体制は整備されているか	4
(5)-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
(5)-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
(5)-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
(5)-6 学生の生活環境への支援は行われているか	4
(5)-7 保護者と適切に連携しているか	4
(5)-8 卒業生への支援体制はあるか	4
(5)-9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
(5)-10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

### ① 課題

特になし

### ② 今後の改善方策

特になし

### ③ 特記事項

特になし

## (6) 教育環境

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(6)-1 施設・設備・図書は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
(6)-2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
(6)-3 防災に対する体制は整備されているか	4

### ① 課題

特になし

### ② 今後の改善方策

特になし

### ③ 特記事項

特になし

## (7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(7)-1 学生募集活動は、適正に行われているか	3
(7)-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
(7)-3 納付金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

(7)-1 募集活動については、協力体制を保ちながら適切に実施運用されているが、コロナ禍の影響により国内の外国人留学生進学者が激減しており、留学生入学者数が確保できない状況であった。

### ② 今後の改善方策

(7)-1 アフターコロナを見据えた留学生確保の施策を実施する。

### ③ 特記事項

特になし

## (8) 財務

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(8)-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
(8)-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
(8)-3 財務について会計監査が適正に行われている	4
(8)-4 財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

特になし

### ② 今後の改善方策

特になし

### ③ 特記事項

特になし

## (9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(9)-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
(9)-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
(9)-3 自己点検・評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
(9)-4 自己点検・評価結果を公開しているか	4

### ① 課題

特になし

### ② 今後の改善方策

特になし

### ③ 特記事項

特になし

## (10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(10)-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
(10)-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
(10)-3 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

### ① 課題

(10)-2 コロナ禍の影響により、地域貢献を目的としたボランティア活動が十分に実施できていない。

### ② 今後の改善方策

(10)-2 ウィズコロナで、様々な制約が緩和される中、2023年度から町内清掃を含むボランティア活動を推進することを計画している。

### ③ 特記事項

特になし

## (11) 国際交流

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(11)-1 留学生の受入れについて戦略を持って行っているか	3
(11)-2 留学生の受入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
(11)-3 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	2
(11)-4 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

### ① 課題

(11)-1 コロナ禍による入国制限の影響により、留学生募集が苦戦している。

(11)-3 問題を抱える学生に対するサポートが出来ず、長期欠席により退学する留学生が増加した。

(11)-4 留学生の学習効果や就職実績などにおいて、特記すべき実績が少ない。

### ② 今後の改善方策

(11)-1 アフターコロナ下における留学生確保の施策を実施する。

(11)-3 留学生支援部の適切な支援体制と就職対応の早期実施を検討する。

(11)-4 留学生の能力や特性を踏まえた授業内容の組み立て、フォロー体制の充実が必要である。

### ③ 特記事項

特になし

## 総括

2022年度もコロナ禍により学校運営に制限はあったものの、登校停止等の措置を行うことなく、授業を実施することができた。しかし、前年度までのコロナ禍による制限措置は、学生のモチベーションを予想以上に低下させており、就職決定率（専門就職率）や退学者の増加などに影響する形となった。2023年度改善に向けて取り組む所存である。

学校運営全般においては単年度で結果に繋がるものではなく、入学時から始まる教育内容の積み重ねが重要である。幸いなことに2022年度はコロナ禍による制限も少なく、以前のような活気ある学校の様子が戻っており、更に2023年度においては、学生はコロナ禍以前の学校生活を送ることができる予定である。しかし、この数年で蓄積されたICT機器を利用した学習効果を高めるための効果的な教育資産については、ウィズコロナにおいても引き続き利用を推進し、業界が求める有為な人財を輩出できる取り組みが重要と考える。